

「たからばこ」



～第2層生活支援コーディネーター向け第5号～

地域の支え合い情報紙「たからばこ」は、地域で頑張っている第2層生活支援コーディネーターの皆さんに向け、第1層協議体（関係者ネットワーク会議）の内容や各地区での活動の様子などを中心に紹介し、地域福祉活動の推進に役立てていただくために、年数回程度の発行を予定しております。

今回は、生活支援体制整備事業市民セミナーの内容と聴講者のアンケートからピックアップしたものをお伝えします。



市民セミナーの様子を紹介します

長岡市生活支援体制整備事業では「地域福祉活動を取り巻く人口減少・担い手不足といった課題に対し、社会心理学的な視点から、人間の行動を考察し、現代社会に求められる地域づくりについての知見を得る」目的で、令和5年9月9日（土）に「社会心理学から学ぶ、令和の地域づくり」をテーマとして開催し、211名の参加がありました。セミナーでは、玉川大学脳科学研究所高岸治人氏に基調講演と、第1層関係者ネットワーク会議で出された意見を参考に、各地域での取り組みの様子をお話いただき、その後、講師と報告者とディスカッションを行いました。

活動報告としては…

長岡市富曾亀コミュニティセンターの清水主事より、「興味のある具体的な活動に焦点を置き、そこに集う男性が地域の担い手にも」という話がありました。

出かけたい場所づくり



相談しやすいムードづくり



男性の地域デビュー

- ① 地域とつながっていきいきと！
- ② 高齢期の男性の居場所を！
- ③ 継続した活動で仲間づくりを！

高町で活動されているキッチンぴ吉代表の長谷川奈々さん、内山美貴夫さんからは、知らない土地に越してきた一人の主婦が、子育てをしながら、そこから繋がった機関や人々と共に「みんな食堂」を始め、次第に応援してくれる仲間や企業が増え、食堂と多世代交流をセットで楽しめる「ぴ吉」の話をしてくださいました。

はじめるきっかけと背中を押してくれたもの

- ① 市民協働ネットワークとのつながり
・社会課題解決のための活動助成 など
- ② レッドキャッツ
- ③ 携わってきた地域の活動



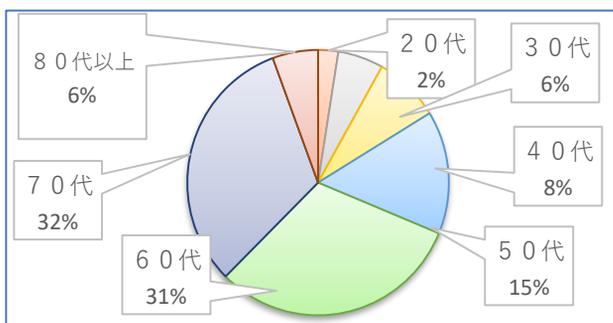
講義や事例発表をもとに、ディスカッションでは…



皆さんの悩みである「担い手不足」の問題への明確な解決策は出ませんが、「手を上げない、声を上げない方」には、事情がもちろんあり、社会的背景も無視できないことは改めて理解しました。また、こうして市内で活躍している人たちの実践報告やその人達とのディスカッションはとても参考になり、また聞きたいという声が大変多くありました。



セミナー聴講者の皆さまのアンケートより



アンケートに回答いただいた方の年代の割合です。また、参加のきっかけは、チラシが一番多く、市政だより、口コミ、公式ラインの順でした。

「地域活動を進めるうえでの課題」という問いについては、「定年延長となり、なかなか仲間に入ろうとしない。家族の後押しもない」「申し込みが面倒」「魅力を感じない」「生活が困窮していると余裕ができない」「個々に声をかけても周りを気にする」「キーパーソンがない」「自分事としてとらえにくいから

」などという意見が多く、「担い手不足」「人材の高齢化」「固定された参加メンバー」などというカテゴリが多くありました。解決策については、「従来のやり方にとらわれず、新しいアイデアも。そのためにも、他地区の取組を聞く」「子どもさん絡みの活動を取り入れる」「開催会場の偏りもあるので、出張するのもいい」「ボランティア休暇取得の実践」など多くの意見がありました。



令和5年度第1回関係者ネットワーク会議で出された意見や市民セミナー聴講者アンケートの内容から、今後の関係者ネットワークでは…

- ・この会議は、地域の特質の幅が広い長岡市全体のことを考える会でもあるため、共通課題として必ず上がる「移動支援」と「人材不足」をテーマに話し合いたい。
- ・チームオレンジなどの取組とあわせて、認知症サポーター養成講座受講者などの人を取りこむことやマッチングをすることなどについて話し合いたい。



このような意見を踏まえて

「担い手確保」に向けた取組について

- ・協力したい方、協力できるがどうしたらいいかわからない方などをうまくマッチングできる仕組みがあれば。
- ・社協をはじめ、コミセン、NPO、シルバー人材センターなどが色々な事業をしているが、それぞれの事業の担い手が不足しており、協力したい人の活動への流れを作れないか

などについて、具体的に考えてみたいと思います。

発行： 長岡市 長寿はつらつ課 令和5年12月

製作： 長岡市社会福祉協議会地域福祉課 生活支援コーディネーター 松浦